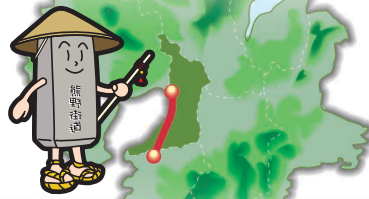


九十九王子と熊野参詣道

街道ウォーキングマップ



地域協働の道しるべ
道や駅前などに設置した道しるべは、花飾りや植栽帯のあるもの、埋め込み型などさまざまです。



しるべくん
街道を楽しく、元気良く、歩くことをイメージした「しるべくん」です。



表紙上部写真：信太森葛葉稲荷神社

お問い合わせは

■大阪府 都市整備部交通道路室
道路整備課交通計画グループ TEL.06-6944-9275

(2008.2) 環境に配慮し、古紙配合率100%の再生紙及び大豆インキを使用しています。



大阪からはじまる熊野詣の旅

天満橋・八軒家から阿倍野、堺、和泉をたどり和歌山へ

淀川を下り八軒家から陸路を歩く

紀伊半島の山々に囲まれた聖地、熊野を目指し、人々が歩いた道が熊野街道となりました。熊野詣は平安時代の土皇や法王にはじまり、時代とともに武士から庶民へと広がり「蟻の熊野詣」といわれるほど盛んになりました。京都から淀川を船で下った人々は渡辺の津(現在の天満橋周辺)で陸にあがり、熊野詣の第一歩を踏みだしました。江戸時代になるとこの船着場が「八軒家」と呼ばれるようになり、三十石船や淀川の荷客輸送の発着場としてにぎわいました。当時の様子を歌川広重が『浪花名所図会』のなかに描いています。老舗の昆布店の軒先には「八軒家

船着場の跡



八軒家船着場の跡

と刻まれた顕彰碑がたずんでいます。この八軒家のあった天満橋周辺は、今、「水の都大阪再生構想」の実現に向けた拠点のひとつとなっています。京阪天満橋駅から中之島を結ぶ「中之島新線」の建設とともに、船着場、遊歩道、にぎわい施設などが整備されます。かつて熊野詣や物資集散地の中心として栄えた八軒家浜が、水都再生の拠点として、現代の交通の要衝、観光スポットに生まれかわろうとしています。

王子をたどり街道のまちなみを行く

熊野詣の陸の出発点である渡辺の津周辺に、九十九王子の第一王子社である窪津王子が設けられました。人々は窪津王子から九十九王子をたどりながら熊野三山(熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智



阿倍王子神社周辺の古いまちなみ

大社)へ向けて旅をしました。王子とは熊野権現(ごんげ)の化身として巡礼者を守護する御子神を祀った社です。人々はここで旅の安全を祈願し、疲れをいやしました。大阪・天満橋から阿倍野、住吉、堺、和泉そして和歌山へと王子をたどれば、たくさん史跡があり、情緒漂うまちなみと出会うことができます。熊野街道は、時を越えて、地域をつなぎ、人をつなぐ道です。

神坂次郎氏が語る熊野街道の歴史

和歌山在住の作家・神坂次郎氏は「熊野は歩かなければ分からない」と長年に渡り熊野を歩き、そのこだわりを作品にしています。



大阪から和歌山へ続く熊野街道

著書『熊野まんだら街道』(新潮文庫)では堺にはじまり和歌山へ続く熊野街道の歴史エピソードを紹介し、「熊野御幸」(新潮社)では歌人・藤原定家が後鳥羽上皇のお伴をして京都から熊野へ向かった様子を紹介しています。



浪花名所図会 八けん屋船着之図 歌川広重画 (太田記念美術館所蔵)



街道マップのご利用方法

このマップは街道の歴史や見どころを知り、街道散策をより楽しんでいただくための推奨ルートです。街道沿いにある史跡や名勝のほか、休憩所やトイレなど散策中に役立つ情報も盛り込まれています。分岐点など分かりにくいポイントには詳細図もついているので、ぜひマップを片手に実際に歩いてみてください。

※ルートは、「歴史の道調査報告書」(大阪府教育委員会)などを参考に設定していますが、古道を限定、特定するものではありません。
※各ページで紹介している歩行距離や標準歩行時間、標準所要時間および電線情報は目安です。

マナーを守って楽しい散策を

- みんなが気持ちよく散策を楽しめるように、マナーを守り人の迷惑になる行為は慎みましょう。
- ゴミは必ず持ち帰りましょう。
- 神社仏閣などでは静かに見学しましょう。
- 喫煙マナーを守り歩きタバコはやめましょう。
- 体調に配慮し無理のない範囲で歩きましょう。
- 史跡や自然を傷つけないようにしましょう。

このパンフレットは3000部作成し、1部あたりの単価は122円です。